

# 米で熱い！落語とアニメ

## 「世界平和のツール」実感

### 林家染太（出身）フェスで高座披露

松山市出身の落語家林家染太（41）＝大阪市在住＝がこのほど、米ノースカロライナ州で開かれたアニメフェスティバルに招かれ、英語落語を披露した。初めてのアニメフェスでの高座。帰国して「アニメも落語も世界平和のツールになると強く感じた」と振り返る。

米国では今、落語が題材の日本の漫画やアニメがヒットし、落語自体への注目度も上昇中という。今回招待されたのは同州ローリーで毎年開催される「アニメいずめんと」。今年20周年を迎えたこともあって「せひ生の落語を」と、外国語落語をライフワークとする染太に声が掛かった。

コスプレ姿の来場者が大挙した会場敷地の中で、落語公演は800人弱を収容するホールで3日間実施。「同じ時間帯には、声優トークショーやヘビメタバンドのライブなど催しがめじろ押し。客がよそに行かないように、分かりやすくテンポよく進められるかが勝負だった」

演目は「動物園」と「ほっじの茶」。二つの古典落語を選んだ。「ほっじの茶」では、茶の葉をほっじると現れる「芸人」に人気アニメ「ONE

PIECE（ワンピース）」の主題歌を歌わせたり、キャラクターの紙切り芸をさせたり、客層に合わせてアレンジを加えた。「ありがたいことに3日間ほぼ満席、大うけ。最後にスタンディングオベーションもしてもらえた」とほほ笑む。

これまでに年2、3回のペースで、米国のほか、メキシコやスペインなど9カ国で200近くの公演をこなしてきた。今回は特に幅広い人種や国籍の人が訪れていた。「みんなが共通の話題で笑い合っていた。日本の漫画やアニメの力は本当にすごい。そこに落語も加わることができると改めて思った」

夢は「自分の落語で世界を平和にすること」と言い切る。落語界ではまだまだ若手。大きな経験を糧に、これからも芸の道をまい進していく。

（山本憲太郎）



●アニメフェスティバルの来場者と記念写真に納まる林家染太（前列中央）●人気キャラクターのコスプレ姿を楽しむ林家染太（左）